

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 いるか教室			
○保護者評価実施期間	令和6年11月25日 ～ 令和6年12月23日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数)	27
○従業者評価実施期間	令和6年12月10日 ～ 令和6年12月23日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢または発達年齢に応じて、小集団活動と個別活動を組み合わせた療育を行っている。（基本的には、年少以下の児は小集団活動中心の療育、年中以上の児は小集団活動と個別活動を組み合わせた療育）	小集団活動では、年間を通して様々な活動（運動遊び、感覚・感覚遊び、制作など）を設定し、遊びの中で経験を広げるとともに人との関わり方を支援している。個別活動では、「大人に注目してもらいながらやりとりをする」、「できたことで達成感を味わう」、「褒められることを実感する」、「ちょっと苦手なことでも頑張ってみる」などをねらいとして、個々の状況に合わせて楽しく取り組めるよう内容を工夫している。	
2	保護者が子どもと一緒に活動したり、見守ることで、保護者が子どもの現状や成長をを直接確認できる。	保護者が一緒に行う活動、見守る活動を子どもの状況に応じて設定するようにしている。	
3	保護所の日々の困り事や育児に関する相談がすぐにできる。	保護者との面談は、毎回設定している。併せて連絡帳での相談にも対応している。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ホームページでの情報発信が十分にできていない。	法人事務局に任せきりになってしまっていることが要因と思われる。	事業所内で内容等を検討し、発信に努めていく。
2	事業所内が狭いこと。	教材等の収納場所がなく、余計に活動場所が狭くなっている。	事業所が今の環境のままで良いのか、移転等が必要なのか法人事務局や盛岡ひまわり学園とも協議を進めていく。
3			